

## ユーザ登録型の日本語アクセント辞典アプリの開発

Development of Japanese accent dictionary on a smartphone with a user registration function

秋山達弘、藤井研一

Tashuhiro Akiyama and Ken-ichi FUJII

大阪工業大学情報科学部

Faculty of Information Science and Technology, Osaka Institute of Technology

Email: kenichi.fujii@oit.ac.jp

現時点でのアクセント辞典の問題点を考察し、それを改善した新しいアクセント辞典の開発を目指した。とくに、日本語には多数存在する同音異義語のアクセントが明瞭に分かるようにすることを目指した。また複合語の扱いも重視する。こういった語そのものの扱いの問題点の改善を目指す一方で、辞書として利用者が積極的に活用できるようユーザ登録の可能性についても試している。

Keywords: インターフェース、数式操作、タブレット PC

1. 現状のアクセント辞典の問題点  
現在、多数存在する辞書の多くがデジタル化され、辞書の活用が容易になり、幅広い利用が行われるようになってきている。またスマートフォンの普及に伴い、スマートフォンに特化したアプリケーションとしての国語辞典や漢字辞典、英語辞典などが、すでに多く開発され利用可能な状況にある。

しかし、日本語のアクセント辞典というものは、俳優や声優、アナウンサーといった発話を専門とする職業人や、それらの職業を目指す人が主なユーザとなり、利用者が限定されるため、もともと数が少なく、紙媒体のアクセント辞典として、『新明解日本語アクセント辞典』[1]や『NHK 日本語発音アクセント新辞典』[2]などがあるだけである。また現在利用可能なデジタル化されたアクセント辞典である『OJAD-日本語アクセント辞書』[3]や『日本語教育用アクセント辞典』[4]といったものには、人名などの固有名詞も多数登録され、アクセントを調べる上で重要な単語が選別されて作られているわけではない。

このため、辞書として改善すべきと思われる点が未だ多く残されていると考えられる。そこで本研究では俳優や声優、アナウンサーを目指す人向けに、特に同音異義語などアクセントを調べる価値の高い語の比較が可能となる、利用者の立場を考慮したア

クセント辞典をスマートフォンやタブレット用のアプリとして開発した。日本語には多数の同音異義語が存在する。これらはアクセントにより区別される。例えば「はし」という単語には食事に用いる「箸」もあれば、川に架かる「橋」などがある。これらは音が「は」の部分で落ちるのか、それとも「し」の部分で落ちるのかで聞いている人によってとらえ方が変わるのである。本研究ではこの音の落ちる部分に着目してアプリの作成を行った。アプリの特徴として、容易に語の登録が行えるものとした。実際に語の登録しながら、本アクセント辞典の有効性を調べ、より良いアクセント辞典開発の基礎を築くことを目指した。

### 2. 開発環境

本研究は Android OS を持つスマートフォンやタブレットを想定し、Android Studio を用いて開発し、開発言語として kotlin[?] を使用した。登録する語句とアクセントはデータベースを用いて管理するが、スマートフォンでも利用可能な軽量のデータベースである Realm[5] を使用した。3 本アプリの狙い  
繰り返しになるが、一般的な日本語のアクセント辞典には何十万という単語が記載されているが、アクセント的に登録の必要のない語や、固有名詞も多数



(a)



(b)

登録されている。また、ウェブ上で利用可能なアクセント辞典は、音声機能などの便利な機能があるものの、「胴上げ」などのような単語（胴）と単語（上げる）を組み合わせた複合語があまり登録されていない。そこで本アプリでは、同音異義語はもちろん明確にするが、複合語の系統立てた登録も行なっていく。複合語のように、語の組み合わせからなるものの数は膨大になると予想できる。全ての登録を目指すのではなく、利用者の要求を組み上げた語を中心に登録可能とし、極めて個人的な取り扱いが可能となる辞書の存在自体を議論した。本アプリの画面を図1に示す。図1(a)には表示画面を、(b)には登録画面を示した。実際に登録単語はリスト構造で示す。ここで「追加」ボタンを押すことで図(b)のような、登録画面へと遷移し、任意の語の登録を可能としている。登録画面の構成は、単語の追加日、単語、読み、アクセント記号、音の落ちる文字数、鼻濁音の音、無声化の音、出典といった項目を登録可能とし、必要なもののみを登録できる。登録画面に登録事項を入力し、追加ボタンを押すことで辞書に単語が追加される。また、すでに登録している単語を押すことで再編集および削除も可能となる。今後の方針としては本研究をもとにより実用的なものを開発したいと思う。具体的には一人のユーザが登録した単語をサーバで管理することで、ほかのユーザにも閲覧可能にする。今後の追加機能としては、音声機能を加えることでよりわかりやすくアクセントや鼻濁音、無声化を意識することができるようにす

るといったことも考えていきたい。

## 参考文献

- [1] 金田一春彦, 秋永一枝『新明解日本語アクセント辞典』, (三省堂、2015年).
- [2] NHK 日本語発音アクセント新辞典 (日本語) (NHK 出版、2016年) .
- [3] OJAD-日本語アクセント辞書、<http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>
- [4] 日本語教育用アクセント辞典、<http://accent.u-biq.org/>
- [kotlin] 田浩明『はじめてのAndroidプログラミング第3版』, (2018年).
- [5] <https://realm.io/jp/products/realm-database/>.